

平成 30 年度 筑北村まち・ひと・しごと創生総合戦略

木質バイオマス事業自立創生事業の概要

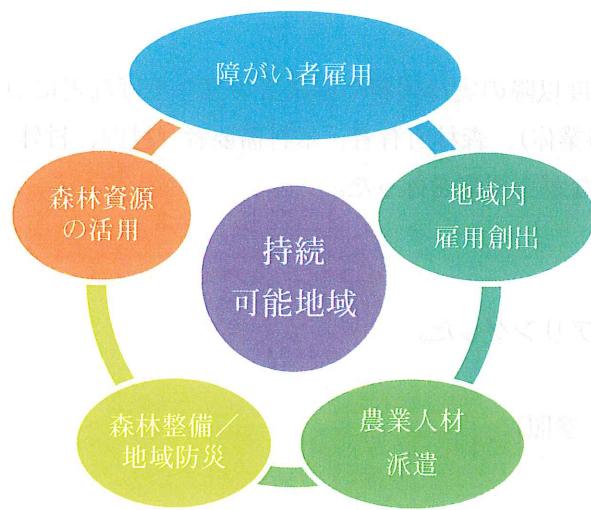
筑北村 産業課

今年度の取組として、下記の事業を実施した。

- ①林業事業体設立支援
- ②筑北村森林・林業基本計画
- ③薪ボイラー導入実施設計

①林業事業体設立支援

筑北村まち・ひと・しごと総合戦略基本目標「美しい山々に囲まれ自然エネルギーが循環する村づくり」の仕組みづくりとして、これまで支援してきた社会福祉協議会から発展独立する障害者雇用(農林福連携)をNPO法人「わっこ谷の山福農林舎」の設立に対して支援を行った。



1. 森林整備／地域防災
 - ・ 次世代へつなぐ林業事業体の構築
2. 木質バイオマス熱利用促進
 - ・ 公共施設への薪暖房導入、エネルギー自給
3. 雇用創出
 - ・ 次世代人材育成／雇用創出
4. 障がい者雇用
 - ・ 障がい者雇用を促進（雇用型を目標）
5. 農業人材派遣
 - ・ 地域の「手間」を担い、「ほしい人手」を創出

①農林福連携団体の設立

- NPO 法人「わっこ谷の山福農林舎」設立
 - ・ 設立準備室を設置、定期会合を開催し（7回）、理事者の決定を経て、設立総会を行う。開設準備のため理事会を開催し（5回）、長野県より法人認証（2/6）を受け、法人登記を行った（2/14）。

②人材育成

- 研修
 - ・ 林業関係（刈払機安全衛生、特殊伐採、伐木造材、特用林産収穫）
 - ・ 福祉関係（精神障害者就労支援セミナー他）
 - ・ 法人運営関係（経理など）
- 雇用状況
 - ・ 常勤 1名、非常勤 4名を雇用し、障害者作業従事者数 9名。

機器整備

- 農林福業事業体運営、および業務拡張のための機器整備を進めた。
 - ・ ハンマーナイフモア
 - ・ ウッドチッパー
 - ・ トラクター

③ その他

- 人材育成および組織運営にかかる器具類の購入
 - ・ 特殊伐採器具類、高所作業用コンテナ、事務機器、大径木伐採用チェーンソーなど

■ 広報・啓発活動

- ・ イベント／講演会／講習会の実施
チエーンソー講習会、「農林福でつなぐ里山のくらし～マツタケ山再生編～」実践講習、「タネと土から考える農と食」講演会
- ・ 間伐材買取（木の駅）実証実験
木質バイオマスボイラ運用のため、針葉樹を含む木材買取実証実験を実施、登録者12名、出荷木材23.5立米(2月末現在)
- ・ ホームページ、リーフレット作成
新団体のホームページ作成、およびリーフレットの作成

② 【筑北村森林・林業基本計画】

平成28年度「筑北村森林資源活用保全戦略」基礎調査業務及び平成29年度「筑北村 森林・林業基本計画」基礎調査業務により得た成果を基に筑北村の森林資源の活用に利する「筑北村 森林・林業基本計画」を策定した。

(1) ワーキンググループ開催 (4回開催)

「筑北村 森林・林業基本計画」の精度向上及び次年度以降の実行体制や協議会の立ち上げなどについて、行政（長野県、筑北村）、林業事業体（森林組合・他事業体）、森林所有者、木材需要者（村内、村外）を構成員としたワーキンググループを開催し、意見を頂きながら調整を行った。

(2) 関係者ヒアリング

ワーキンググループ構成員へ個別に確認する事項をヒアリングした。

(3) 「筑北村 森林・林業基本計画」策定 (別紙2 参照)

③ 【薪ボイラー導入実施設計】

筑北村まち・ひと・しごと総合戦略基本目標「美しい山々に囲まれ自然エネルギーが循環する村づくり」の一環として、村営宿泊施設「西条温泉とくら」の加温施設として薪ボイラーの導入を行うための設計を行った。

(1) 設計概要

建築工事	薪ボイラー建屋 11 m ²	薪置き場 11 m ²
機械工事	薪ボイラー170Kw、ポンプ、熱交換器	
電気工事		

(2) 薪ボイラー導入による効果

- ・ 試算だが、薪利用により年間50万円の光熱費削減効果を見込んでいる。
- ・ 前述のNPO法人と連携し、薪の供給とボイラー稼働に関する障害者の雇用を図る。



やましごと へ宝と宝がつながる未来へ

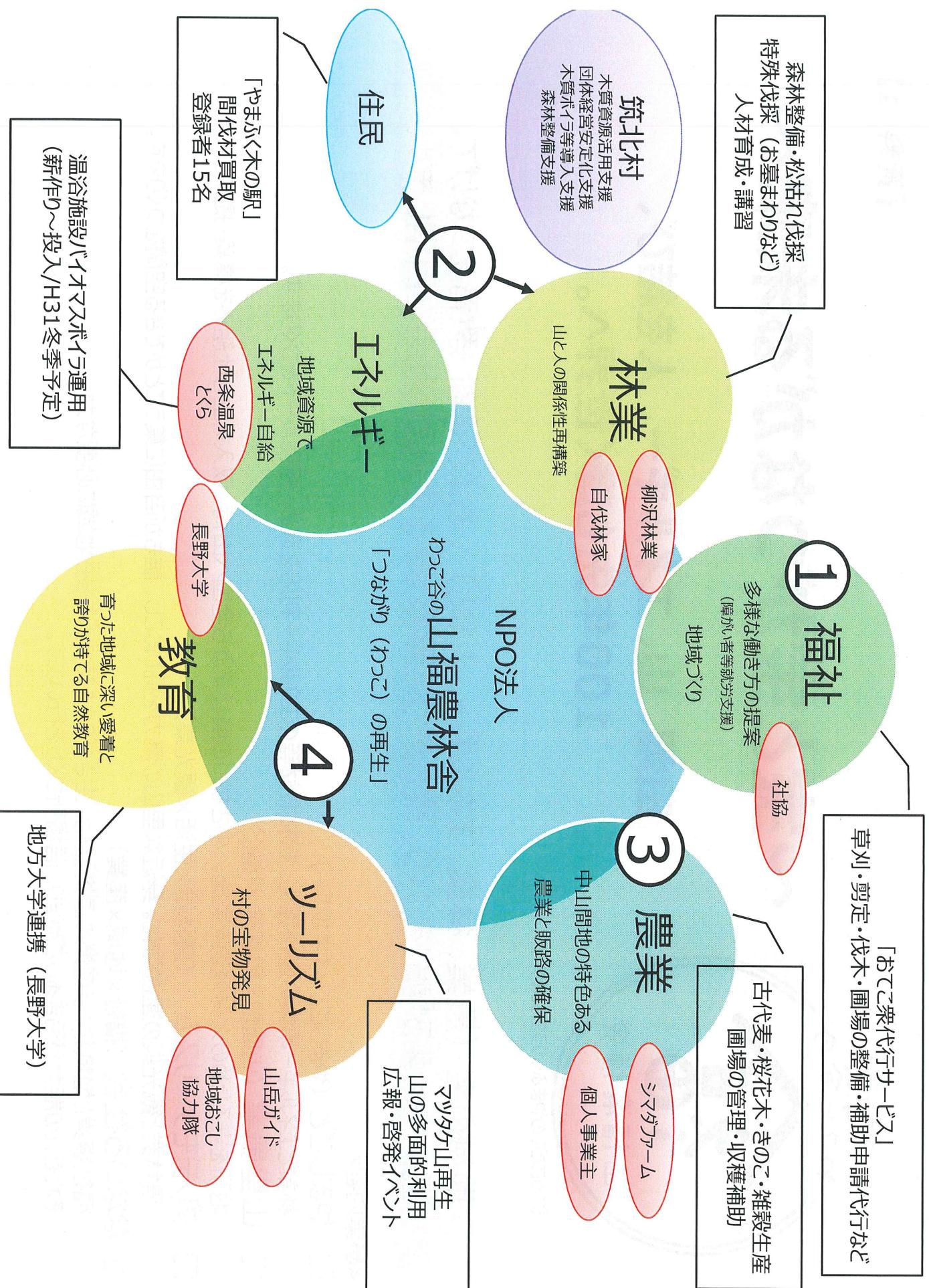
田畠、山、エネルギー、人を結び、
100年先も輝く世界へ。

(わっこだにのやまふくのうりんしや)

地域の宝（農業、林業、工業、エネルギー、人など）、および福祉・教育をつなげて、協力し合える「輪」をつくり、誰もが力を発揮できる住みよい社会を目指します。

«事業内容»

- やましごと（やましごと×エネルギー）
林業とエネルギー事業の連携強化。松枯れ材等のエネルギー利用を進め、販売ルートをつくります。
- 山里農業（山間地×農林業×福祉）
地所を守るためにの人材派遣を実施。小さな山の農林業から全国へ出荷。収入を生む仕組みを構築・提案します。
- ダレデモツリズム（農林業×生活×観光業）
農林業と観光業の連携強化。身近な里山の魅力を掘りおこし、誰もが自由に集うことができる空間をつくります。
- なないろ社会（福祉×地域×産業）
福祉事業と地域および産業の連携強化。生きづらさを持つ人たちも地域に必要な力。それぞれの能力が活きるしごと作り、居場所づくりを行います。





筑北村森林・林業基本計画の実行体制について

筑北村では、2018年度に設立した森林・林業基本計画策定ワーキンググループを前身として、2019年4月に村内外の森林・林業関係者をメンバーとする「筑北村森林資源活用協議会(仮称)」を立ち上げます。本協議会は、基本計画の実行に必要となる基盤整備や、森林情報の有効活用、環境に配慮した森林施業の推進等に向けた筑北村の森林・林業施策の諮問機関の役割を担います。



筑北村森林・林業基本計画に関するQ & A

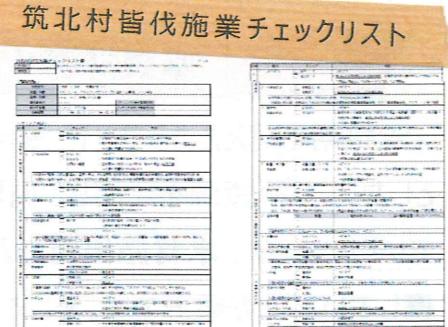
Q 1 : 松くい虫の被害対策はどのように進めていくの？

筑北村では、基本計画策定に向けた基礎調査の一環として、2016年度に村内全域のアカマツの健全度調査を実施しました。基本計画では、この調査結果を元に、健全度別のアカマツの取り扱い方針を定め、効果的な対策を進めています。また、今後も継続的にアカマツ林の被害状況のモニタリングを続けています。



Q 2 : 森林の伐採が進むと、大雨などで山が崩れやすくなってしまうのでは？

基本計画では、「安心で豊かな森づくり」の実現のため、ゾーニングの中に様々な防災・環境関連の基準を反映しています。また、今後村内で皆伐作業を行う素材生産業者の方々には、伐採開始30日前までに、「筑北村皆伐施業チェックリスト」を村に提出し、防災や環境に関する様々なリスクや規制をチェックとともに、必要に応じて、森林所有者の方々や役場と事前に協議することとしています。



Q 3 : 基本計画が施行すると、所有する森林に何か制限がかかるの？

本計画におけるゾーニングや伐採・造林計画は、森林の樹種や成長力、道からの距離、様々な法規制等に則って定めた各森林の取り扱いの目安となるもので、各森林の取り扱いに特別な制限を設けたものではありません。実際の森林施業は、各森林の所有者の方々の意向を確認した上で実施されます。



筑北村森林・林業基本計画に関するお問い合わせはこちらへ

筑北村役場 産業課 農林係

〒399-7501 長野県東筑摩郡筑北村西条4195

☎ 0263-66-2111 ☎ 03-3214-3252

基本計画の本体は以下のURLからご覧いただけます。

☞ URL : <http://○○○○○○○>

資料2

筑北村森林・林業基本計画

概要版



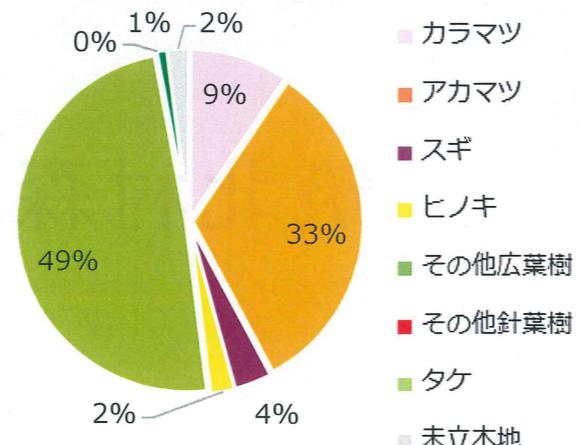
2019年4月

筑北村

筑北村の森林の特徴

筑北村の森林面積は約8,300haであり、村の面積の約8割を占めています。アカマツ・カラマツ・スギ・ヒノキ・広葉樹といった多様な樹種※が見られるのが特徴で、アカマツ・カラアツを中心とする人工林は収穫期を迎えており、景観や防災への影響が懸念されています。また、少子高齢化や人口流出により、村民と森林の関わりが薄れてしまったことで、本来森林の持つ多面的機能の低下も表面化しつつあります。

※樹種：樹木の種類



筑北村の森林の樹種別面積割合

筑北村森林・林業のビジョン

1. アカマツ林の再生

「村の木」であるアカマツを大切に守り育て、次世代に受け継いでいきます。

2. 森の多様性を生かす

循環型林業を推進し、筑北村ならではの多様な森の恵みを村内外で活かします。

3. 安心で豊かな森づくり

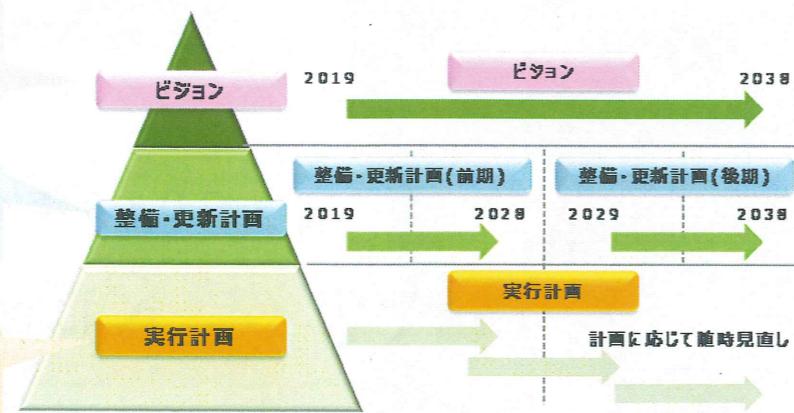
村民の安心で豊かな暮らしの基盤となる「災害に強く美しい森づくり」を進めます。



筑北村森林・林業基本計画の構成と計画期間

筑北村の目指す森林・林業の姿に向けた基本構想(計画期間：20年間)

ビジョン実現に向けた具体的な森林整備・更新計画(計画期間：5年に1度見直し)

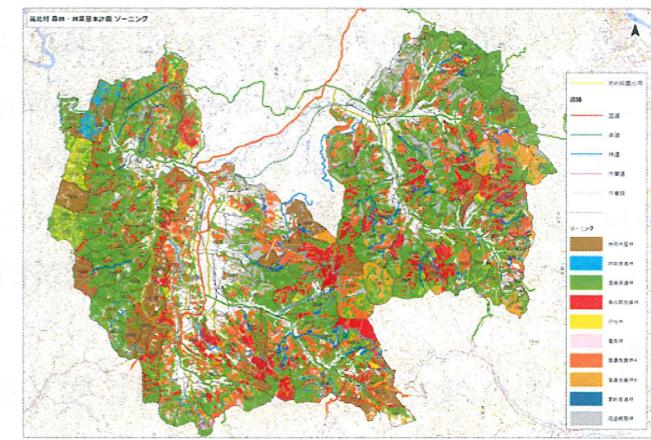


整備・更新計画で定める施策の実現に向けた実行体制(計画期間：随時見直し)

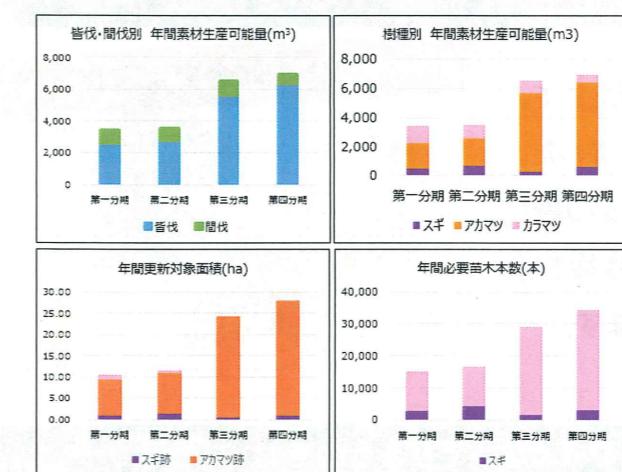
筑北村森林整備・更新計画について

ゾーニング

ビジョン実現のためには、筑北村の森林が本来備えている、木材生産、生物多様性の保全、土砂災害の防止、水源涵(かん)養、保健・レクリエーションの場の提供といった多面的な機能を最大限に発揮させることが重要です。そこで本計画では、このような森林の機能や役割に応じて、村内全域の森林の詳細なゾーニング(区分)を定めています。



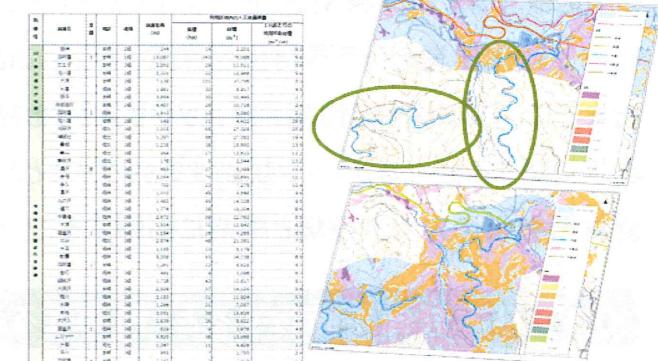
伐採・造林計画



路網計画*

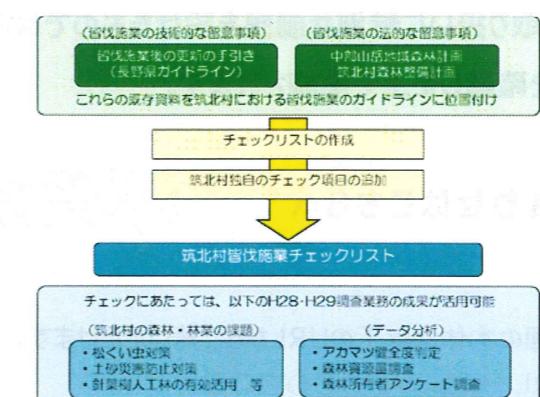
成熟期を迎えたカラマツや、健全なアカマツを中心とした人工林資源を活用し、循環型林業を促していくためには、木材搬出用の路網を効果的に整備していくことが重要です。そこで、既存の林道の改良の優先順位を見える化し、今後の路網整備の指針として位置付けました。

*路網：森林施業を効率的に行うための道のこと



筑北村皆伐施業※チェックリスト

村内における素材生産活動の本格化に備えて、特に影響の大きい「皆伐施業」について、環境への配慮等を盛り込んだ村独自の「筑北村皆伐施業チェックリスト」を作成しています。



*皆伐施業：対象となる森林の区画の樹木をすべて伐採すること